

イシガメ幼体の活動は短時間であったが、観察途中で近くまで行き、容器内の撮影や水温測定をするなどの刺激を与えたために僅かな時間で隠れたものと思われる。越冬地である池や川の水底付近の温度が0.4℃未満になることはめったに無いと考えられることから、越冬期間の低温条件下においてもイシガメ、少なくとも越冬期の初期段階における幼体は活動が可能であると思われる。

#### 引用文献

小賀野大一. 2016. 2015年1月に観察されたニホンイシガメの行動記録. 亀楽 12: 1-3.

---

## シマヘビに補食された淡水性カメ類の卵

小賀野 大一

千葉県野生生物研究会

Freshwater turtle eggs fed by japanese striped snake *Elaphe quadrivirgata*

By Daiichi OGANO

Chiba Wildlife Research Society, 962-40 Semata, Ichihara-shi, Chiba 290-0151, Japan

---

淡水性カメ類の捕食者に関する文献は少ない(例えば, 青木, 1975など)。少し古い記録になるが, 筆者がかつてニホンイシガメの個体群調査を行うために通っていた房総半島を流れる小河川(千葉県富津市)において, シマヘビ*Elaphe quadrivirgata*による淡水性カメ類の卵(以下, カメ卵)の捕食を確認したので, 以下にその事例を紹介したい。

1993年8月11日正午, 当日の天候は晴れ。河川沿いでシマヘビを捕獲し強制嘔吐により胃内容物を調べたところ, 3個のカメ卵を確認した。その際, カメ卵以外の胃内容物は確認されなかった。シマヘビは, 頭胴長1106mm, 尾長298mm, 体重442gの雄の成体であった。カメ卵の種は特定されていないが, 当時この調査地はニホンイシガメ*Mauremys japonica*が優占して生息しており, その他のカメ類としてクサガメ*Mauremys reevesii* と両種の雑種(*M.japonica* × *M.reevesii*)がいずれも少数見られた。シマヘビに捕食されたカメ卵は, 優占率から判断するとニホンイシガメの卵の可能性が高いといえるが, クサガメや雑種の可能性も否定できない。

2010年頃より, この調査地ではアライグマによるカメ類の捕食被害が生じ始め, ニホンイシガメは絶滅状態となり, 今ではその姿を確認することがほとんどできなくなった。一方, 当時カメ卵を捕食していたシマヘビもまた近年見られなくなった。このシマヘビの減少要因は, カメ類がいなくなったことによるものか, アライグマの補食被害を直接受けたものなのかは今のところ不明である。

#### 引用文献

青木良輔. 1975. 三浦半島の爬虫類相(I). 爬虫両生類雑記 3(5):64-65.